

知って 備えて 行動する 防災ワークブック(こども向け)『単元構成』

本教材は、①自然災害が起きた際の基本的な避難行動について学ぶ事前学習、②災害への備えを実践するワークシート、③日本で起きた災害の事例とそこから得られる教訓を考える教訓学習の3ステップで構成されています。

ステップ①事前学習

【タイトル】第1章 昔の教えを生かして自分で動こう(災害について知ろう／命を守るために私たちができること)

【該当ページ】P4～8

【学習目標】

1. 自然災害の種類を学ぶ
2. 自然災害が発生した際に取りるべき行動について学ぶ
3. 自助・共助・公助の考え方を知る

【想定時間】45分



ステップ②ワークシート

【タイトル】第1章 昔の教えを生かして自分で動こう(自分の身を守るために、今できることをしよう)

【該当ページ】P8～13

【学習目標】

1. 日ごろからの備えの必要性について学ぶ
2. 被災時を想像して、いざというときに自分を取りるべき行動について考える

【ワークシート】

- ・ 家族と話し合って大切な約束事を決めよう
- ・ 防災リュックを用意しよう
- ・ 家にある備蓄品を確認しよう
- ・ ハザードマップを確認しよう

【想定時間】90分



ステップ③教訓学習

【タイトル】第2章 昔の災害を詳しく知ろう

【該当ページ】P14～23

【学習目標】

1. 過去の災害の被害と、そこから得られる教訓について知る
2. 教訓を生かして自分にできる防災・避難行動について考える
3. 過去の災害を継承していく必要性を学ぶ

【想定時間】45分

■基礎データ

タイトル	第1章 昔の教えを生かして自分で動こう(災害について知ろう／命を守るために私たちができること)
学習目標	1. 自然災害の種類を学ぶ 2. 自然災害が発生した際の行動について学ぶ 3. 自助・共助・公助の考え方を知る
学習形態	授業・調べ学習
準備	ー(タブレット等調べ学習用の準備があるとよい)
想定時間	45分

■学習の流れ

頁	構成・内容(全体45分)	指導上の留意点(主な発問など)
4 - 5	災害について知ろう(15分) ➢ 地震・津波、風水害、火山噴火という代表的な自然災害について、各災害が起きた際の基本行動を中心に解説しています。各災害について、第2章の過去の事例と紐づけています。	「様々な災害がありますが、災害というとどのような災害を思い出しますか。」 ➢ 地震、津波、雷、暴風、噴火、土石流、雪崩、火災など、思いつく災害がある人に発表させる。 ➢ 「雨が降ること」「風が吹くこと」そのものを災害と捉えている場合があるが、「自然現象そのものではなく、それによって人がけがをしたり、家や道路、電気・水道などに被害が出たりすると災害になる」と整理する。 「各災害によってどのような被害が発生するでしょうか。」 ➢ 転倒・けが、家屋の倒壊、通行止め、停電など、発表させる。 ➢ 被害が発生しない場合は「災害」にならない(自然現象)ことに気付かせる。 「実際に、近隣の〇〇(地名)で起きた災害があります。事例のページを見てみましょう。」
6	街に残された災害の記録(10分) ➢ 全国の事例として、看板、言い伝え、地名などの形で災害の記憶が残されていることを紹介します。自分たちの地域の過去の災害に興味を持ってもらい、その地域における災害の特徴を学ぶことは、繰り返される災害に対する防災教育として重要です。	「私たちの住む地域にはどのような災害の記録があるでしょうか。」 ➢ 自分たちの住む地域で類似の記録がないか、タブレットや図書館などで調べる。 ➢ その記録から何が学べるかを考え、発表させる。 ➢ 家族や地域の人から地域の昔の災害について聞いたことがある人がいれば、発表させてもよい。(口伝による継承) ➢ 「昔の災害だから今は関係ない」と捉えている場合があるが、「昔の人が残した記録は、次に同じような災害が起きた時に命を守るためのヒント」と理解させる。 ➢ 「地名に『川』『池』『谷』が入っているから必ず危険」「入っていないから安全」と単純に判断するのではなく、ハザードマップや地域の人の話とあわせて確かめることを補足する。 次頁へ続く

頁	構成・内容(全体45分)	指導上の留意点(主な発問など)
7	命を守るために私たちができること(15分) ➤ こどもたちにとって、なかなか大災害の時に自分でできることは少ない(「公助」が中心である)というイメージが強いかもしれませんが、防災の基本的な考えとして、自分で自分や家族を守る「自助」が原則であることを伝えます。また、実際の災害では、地域の人と助け合う「共助」も多くの命を救ってきたことを伝えます。	「(下部のイラスト)それぞれの絵のような場面では、どのような「自助」「共助」ができるでしょうか。」 ➤ 地震の時はまず「自助」として、自分の頭を机の下などに隠して守る。 ➤ 大雨が降っている時、家にいることが安全かをハザードマップやテレビ・ラジオの情報などで判断して、必要であれば避難する。近隣の高齢者に声をかけるなど一緒に避難することは「共助」であるを補足する。 ➤ 停電した時は、ラジオで最新の情報を得て状況を把握する。日ごろから備蓄品として食料や懐中電灯などを用意しておく。 ➤ 「自助」は自分だけ助かればよいことだと誤解する場合があるため、「自助は、まず自分の命を守ること。自分が安全でなければ、周りの人を助けることもできない」と整理する。 ➤ 「共助」は危険な場所に戻って人を助けに行くことだと誤解しないよう、「共助は安全な範囲で声をかける、先生や大人に知らせる、一緒に避難することも含まれる」と補足する。
—	まとめ(5分)	「今日は、自然災害の種類や、実際に災害が発生した時の対応行動を学習しました。災害が起こるとき、いつも先生や家族などの大人の人がそばにいるとは限りません。今日学んだことを思い出して、まずは自助、そして余裕があれば共助が大切だということを覚えておきましょう。」

■評価の観点

1. 自然災害の種類を知り、「自然現象＝災害」ではなく、自然現象によって被害を受けることが災害につながるということを理解できているか。
2. 自然災害が発生した際、取るべき避難行動について正しく理解できているか。とくに、人からの助けを待つのではなく、まずは自分で自分を守る行動が大切だということを理解しているか。
3. 自助・共助・公助について理解できているか。自助を前提としつつ、地域の人や周りの人に対する共助の大切さについても理解できているか。どのような共助が自分にできるか考えられているか。

■基礎データ

タイトル	第1章 昔の教えを生かして自分で動こう(災害について知ろう／命を守るために私たちができること)
学習目標	1. 日ごろからの備えの必要性について学ぶ 2. 災害時を想像して、いざというときに自分取るべき行動について考える
学習形態	グループ
準備	防災リュック、備蓄品、地域のハザードマップ、ホワイトボード・ペン(または黒板・チョークなど)、タブレット
想定時間	90分

■学習の流れ

頁	構成・内容	指導上の留意点(主な発問など)
8-9	家族と話し合って大切な約束事を決めよう(20分) ▶ 家族と集合場所や連絡手段、避難先などを話し合っておくべきことを伝えます。 ・ワークシート記入(10分) ・発表(5分) ・まとめ(5分)	「皆さんのご家庭では、どのような災害の時の約束事を決めていますか」 ▶ 「学校にいる時は迎えに来てもらう」「近くの公園に集まる」「避難所に行く」など、各家庭でのルールがあれば発表させる。取り入れられそうなものがあれば家に持ち帰って共有させる。
		「なぜ事前に約束事を決めておくことが大切なのでしょう」 ▶ 災害が起こった際は、停電、公共交通機関の乱れ、通信手段(電話やインターネット)の確保が困難になるなど、いつも通りの行動が難しくなることを気付かせる。
		「学校(学童など、指導場所)でのルールも確認しましょう」 ▶ 指導する場が家庭でない場合、学校や学童等における避難のルールなどがあれば、あわせて確認する。
10	防災リュックを用意しよう(20分) ▶ 日ごろからの備えとして、防災リュックを確認・準備するワークシートです。 ・リストを確認する(7分) ・ワークシート記入(5分) ・発表(5分) ・まとめ(3分)	「ホイッスル(または軍手など)はどのような場面で使いますか」 ▶ ホイッスルは地震の時に閉じ込められた際など、自分の居場所を知らせるため。軍手は、ガラスが散乱した際などのけがの防止の他、防寒にも役立つ。災害の状況を想像させて、必要なものを考えさせる。
		「ほかに入れておくべきものは何が思いつきますか」
		「防災リュックが用意できたら、実際に背負ってみましょう。重さはどうですか」 ▶ 「重くてもたくさん入っている方が安心」と考えている場合、「防災リュックは持ち出せることが大切。重すぎると逃げる時の負担になる」と確認する。
11	家にある備蓄品を確認しよう(15分) ▶ 日ごろからの備えとして、備蓄品を確認・準備するワークシートです。 ・リストを確認する(5分) ・ワークシート記入(5分) ・発表(4分) ・まとめ(1分)	「賞味期限を確認してみましょう」 ▶ 定期的な確認・交換が必要なことを理解させる。
		「皆さんのご家庭では、どのような備蓄をしていますか」 ▶ 備蓄しているもの(ペット用品など)や、工夫(ローリングストック等)についてあれば発表させ、取り入れられそうなものがあれば家に持ち帰って共有させる。 ▶ 防災リュックと家庭備蓄を同じものとして捉える場合があるため、「防災リュックは持ち出すもの、備蓄品は家で生活続けるためのもの」と違いを押さえる。

次頁へ続く

頁	構成・内容	指導上の留意点(主な発問など)
12-13	ハザードマップを確認しよう(30分) ➤ ハザードマップの見方、自分たちの地域の安全性について確認します。 ・ハザードマップについて学ぶ(8分) ・地域のハザードマップを確認する(グループワーク)(10分) ・発表(10分) ・まとめ(2分)	「地域にはどのようなハザードマップがあるか調べてみましょう」 ➤ ハザードマップには種類(洪水、内水、津波、高潮、火山等)があり、地域によって用意されているものが異なる。 「ハザードマップを見て、学校(または家)の周りに色が塗られているエリアはありますか。なぜ危険なのでしょう。」 ➤ 自分たちの地域の危険区域を確認させる。「川の近くだから」「低い土地だから」「崖があるから」「海に近いから」など、危険の原因に気付かせる。 ➤ 色が塗られている場所だけを見て、災害の種類や凡例を確認しないことがあるため、きちんと凡例とセットで確認させる。 「避難所の場所を確認しましょう。家から避難所までの安全なルートを考えましょう」 ➤ 家が安全な場合は、原則避難所への避難は必要ない(在宅避難)ことを伝える。 ➤ 一番近い避難所が常に最適だと誤解している場合があるため、避難所までの距離だけでなく、途中で川・崖・橋・狭い道などがなければ確認する必要があることを伝える。
—	まとめ(5分)	「今日は、日ごろから災害に備えておくために必要なことを学びました。ぜひ、家に帰ったらおうちの人にも学んだことを共有して、家族で防災のための行動について話し合ってください。」

■評価の観点

1. 災害時の状況を想像し理解したうえで自分ごととして捉え、家族との約束や防災リュック・備蓄品を日ごろから準備しておくことの必要性を理解できているか。
2. ハザードマップの見方を理解できているか。ハザードマップを用いて、地域のリスクの有無について理解できているか。

学習指導案 ステップ③教訓学習

■基礎データ

タイトル	第2章 昔の災害を詳しく知ろう
学習目標	1. 過去の災害の被害と、そこから得られる教訓について知る 2. 教訓を生かして自分にできる防災・避難行動について考える 3. 過去の災害を継承していく必要性を学ぶ
学習形態	授業・調べ学習
準備	タブレット
想定時間	45分

■学習の流れ

頁	構成・内容	指導上の留意点(主な発問など)
14-23	昔の災害を詳しく知ろう ➢ 災害種別ごとに、代表的な過去の事例が「どんな災害だったか」「その災害から今後の防災に生かすべき学び」について記載した事例ページです。 ・事例の学習時間(20分) ・調べ学習(右記のAまたはBを選択)(15分) ・発表(5分)	【調べ学習】 A.「気になった災害を一つ選んで調べてみましょう」 ➢ 「知っているから」「最近起きたから」「写真が怖かったから」「自分の地域に近いから」など、気になる災害を選ばせる。 ➢ 図書館、タブレット等での調べ学習につなげる。どのような災害だったか、どのような被害があったか、なぜその被害が起きてしまったのかを調べさせる。 B.「その他の災害について調べてみましょう」 ➢ 掲載されていない災害について、海外の災害(日本が復興支援したものなど)、近隣地域で起きた災害などテーマを定めてもよい。 ➢ インターネット上の情報をそのまま信じたり、SNSや動画サイトの印象的な映像に注目する場合がある。「誰が出している情報か」「いつの情報か」「複数の情報で同じことが確認できるか」を確認させるなど、情報の確かめ方も防災行動の一つとして指導する。
—	まとめ(5分)	【発表】 「事例を学んで感じたことを発表しましょう」 ➢ 決してこれらの災害は遠い昔の話ではなく、災害大国の日本の今の生活に教訓として生き続けていること、これからも風化させずに伝えていくことが大切だと気付かせる。 ➢ 「怖い」で終わり、具体的な行動につながらないことや、「大きな災害が来たら何をしても無駄」と考えてしまう場合がある。知る・備える・行動することで命を守れることを伝える。 「今日は、日本で起きた災害の事例と、そこから得られた教訓について学びました。過去の災害から学び、これからの私たちの防災に生かせることはたくさんあります。今日学んだ中で、早速実践していけそうなものから始めていきましょう。」

■評価の観点

1. 日本における過去の災害について知り、なぜ大きな被害が発生してしまったかについて理解できているか。
2. 各災害における教訓を理解して、自分たちの防災・避難行動につなげていく意識が醸成されているか。
3. 過去の災害を学ぶことや継承していくことの重要性について理解しているか。